



## 令和3年度 研究のまとめ

嶺南教育実践フォーラムにおきましては、多数のご参加ありがとうございました。  
今年度、研究員グループでは、『子供が主体性を発揮できる学校づくり』というテーマのもと、「学級集団づくり」や「授業づくり」について、それぞれの経験や専門性を活かした研究に取り組んできました。



## 「子供が主体性を発揮できる学校づくり」

～一人一人の学びを支える伴走者として～



研究員が定義した【子供の主体性】：自ら課題を発見し、判断して、粘り強く取り組もうとする姿



各研究で実践した「多様性の認め合い」「学びの履歴の尊重」「自分ごととなる課題設定」「子供に委ねること」「到達目標の明確化」などの教師の関わり方や手立てによって「子供の主体性」が引き出されることを確かめることができました。子供たちの姿に勇気づけられながら、何度も自問自答し、「主体性」という言葉に向き合い続けた1年でした。

互いの研究について情報共有する中で、子供が「主体性を発揮している姿」の具体的なイメージが、固まったり、広がったりしていきました。このイメージは、教員が自分に問い続けることで、磨かれていくものだと感じています。同時に、目指す子供像を明確にもちつつも、学校環境や子供の実態に応じて適切な指導ができる教員の力量が求められると感じました。

社会で自分らしく生きる子供たちを支えるために、伴走者として教員の担う役割は大きく、教師自身が主体性をもって学び続け、実践を重ねることが必要です。私たちの研究が嶺南の先生方のお役に立ちましたら嬉しく思います。

研究を進めるにあたり、多くの学校・園、先生方にお世話になりました。本当にありがとうございました。

次号より個人のまとめを報告させていただきます。